



さかい ゆきこ とう さばえ
酒井 友季子〔ふくいの党・鯖江〕



子どもの学校生活について

問 学校で水筒の中身を飲み干した子どもたちのために、小中学校にボトル給水型冷水機の導入の検討をお願いしたい。

答 教育長 現在、各学校が状況に応じて水分補給の対策を行っている。今後は冷水機の導入も含めて、校長会や学校現場の話も聞きながら、児童・生徒の安心安全な学校生活の確保に努めていく。

問 冬期スクールバスを利用する市民のアンケート結果についてどう感じるか。

答 結果から費用が負担になっていることが分かる。様々な意見がある中で、公平性・公共性のバランスを図りながらの支援が必要である。



きむら あいこ しみんそうせいかい
木村 愛子〔市民創世会〕



佐々木市政の4年間を総括して

問 一人ひとりに寄り添える福祉政策が大事と思うが、市長の所見は。

答 市長 福祉総合相談室を設置し、相談件数延べ114件で、障がいやひきこもりに関する相談が全体の5割を占める。対象者に合わせた相談支援機関等との連携支援を継続し、本人や世帯に寄り添った専門職による伴走支援と、地域住民同士の人と人とのつながりを基盤としたセーフティネットを強化し、一人ひとりが生きがいややりがい、役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことができる地域共生社会の実現に向けた地域づくりに取り組んでいく。

問 鯖江駅東・周辺駐車場の料金体制の見直しは。



だいもん よしかず せいせいかい
大門 嘉和〔清鯖会〕



まなべの館と現NPOセンターについて

問 現NPOセンターを新美術館として整備し、まなべの館と一体として運営できればお互いの利便性が向上し、文化祭展示や大きな特別展なども開催できる。まなべの館は博物館として、現NPOセンターは美術館として再整備できないか。

答 まなべの館は開館当初は資料館だったので、展示のための室温度の調整機能、バックヤードの不足など、博物館としての機能が不十分な状態である。また、隣接するNPOセンターは現在整備計画を進めている嚮陽会館複合交流施設への機能移転を検討している。

問 費用負担が少ない公共交通機関の利用が望ましいが、つつじバス通学便の廃止の理由と復活させるに当たっての課題は何か。

答 利用者が少なく廃止に至ったという経緯がある。令和4年から現在のバスは高齢者の足の確保に重点を置いたダイヤに編成をした。利用者を増やすこと、運行経費の増大、運転手不足の解消等が課題である。

つつじマラソンについて

問 日常用車椅子ランナー部門の復活を検討してほしい。

答 他市町で日常用車椅子ランナーの参加が認められている大会での条件なども調べながら、様々な角度からの意見を聞き、健常者と障がいのある人が垣根なくマラソンに参加できるよう実行委員会に話していきたい。



日常用車椅子

答 鯖江駅周辺全体の再整備の再検討を行っている状態で、駐車場の在り方、また料金体制も併せて検討していきたいと考えている。

問 嚮陽会館複合交流施設の2階部分の市民活動拠点について、所見は。

答 複合交流施設整備を行う嚮陽会館の2階を、市民活動の交流の強化と市民力の向上につながる新たな活動拠点となるよう、具体的な機能の設置について協議を続けていく。

問 まちづくりで交通手段は非常に重要。ダイヤ編成もさることながら、バスの小型化、福祉バスの復活、冬場のスクールバス、ちょいボラ交通、デマンドバス等、交通難民の総合的な政策が求められるのでは。

答 デマンド交通などに取り組んでいる市町の利用状況等も研究し、多様なニーズにお応えできる対応を研究していきたいと考えている。

久里洋二作品をはじめとした美術収蔵庫の在り方、市民文化団体の文化活動の場としての展示スペースの確保という課題もある。市民にとって分かりやすく利用しやすい施設整備の方向性について幅広く検討している。

貴重な美術品、郷土資料を今後も適切に保存活用し、芸術文化発信の拠点として博物館施設の充実を図るために、美術、歴史のゾーニング、施設全体の今後の在り方、それから名称も含め、あらゆる角度から検討を重ねていきたい。

【その他の質問】

- ・佐々木市長の1期目の総括
- ・地方交付税について
- ・伝統工芸越前漆器のこれから



まなべの館とNPOセンター